

ぜっ校長!

第49号…ご卒業おめでとう!
2020(令和2)年3月6日(金)
稲羽中学校 校長 江口 雅明

☆まさかこんなことになるなんて・・・それでも堂々と胸を張って卒業してほしい!

▼誰がこんな“結末”を想像できたでしょうか?・・・2月27日、安倍首相の一言で、日本中の学校が、教職員が、児童生徒が、見通しのもてない暗闇に入り込んでしまいました。「断腸の思いである」とか「判断に時間をかける暇がなかった」と言う一国の首相の責任の重さは、一人の校長が抱える責任の重さなんかとは比較にならないことくらい十分にわかっています。しかし、物事には段階(ステップ)というものがあるはず。そんなステップも踏まずに、国(政府)の要請に岐阜県も従い、翌日には各務原市教育委員会から3月2日から臨時休校とする判断をいただきました。まさに、校長として“断腸の思い”で6時間目終了後に全校放送を校長自ら行いました。「今日が、令和元年度の最後の授業日となりました・・・」と、放送室のマイクに向かって、私は愛して止まない生徒たちに語りかけました。3月26日に予定していた修了式も離任式も行うことができず、これが校長として最後の話となってしまいました。心にぽっかりと大きな穴が開いて、涙も出ませんでした。▼それでも、先週、3年生の各教室で「校長による最後の授業」ができたことが唯一の喜びです。「ぼくは死んでも先生になんかならない!」というタイトルで、つまらない話をさせていただいたのですが、3年生の皆さんは、じっと私の話に耳を傾けてくれました。中には「感動しました!」なんて言ってくれる生徒もいて、うれしかったです。稲羽の子どもたちが目や耳を向けてくれるような授業ができる稲羽中の先生方は、本当に幸せだとうらやましくも思いました。▼今日は、卒業証書授与式。3年生の皆さんの“巣立ちの日”です。その卒業式すらも、地域などで大変お世話になってきたご来賓の方々も、可愛い後輩である在校生も参加できず、また内容も時間もできるだけ縮小して行うよう指示が出され、実にさみしい式典しか行ってあげられず、本当に申し訳ないです。学校によっては、卒業証書を代表に授与するだけであったり、卒業記念合唱も取り止めたりしています。本校では、「生徒が主役」なので、卒業証書は一人一人に授与し、卒業記念合唱も行います。したがって、時間の関係で「校長式辞」も行いません。“幻の式辞”になってしまいましたが、校長の思いだけは伝えたいと思い、卒業式のために一生懸命書き上げた「校長式辞」の原稿を裏面に原文のまま印刷しておきます。読んでいただければ幸いです。

☆What Cool Students! 稲中生、頑張っています!

【部活動や個人の表彰など】 ※敬称略

◎陸上競技部 山田 優(2-1) 2/23 「第7回岐南町マラソン大会」

➡【中学生 女子の部】 **第3位!**



【ボランティア 50 回達成者】 ※敬称略 ②=2冊目 ③=3冊目 ④=4冊目 ⑤=5冊目 ⑥=6冊目 ⑦=7冊目

◎市野 華蓮(1-2)③ ◎松波 夕愛(1-2)④ ◎伊藤杏南実(1-2) ➡**ついに 10 冊目!**

◎足立恭太郎(3-2) ◎岩井 元希(3-3) ◎村上 里紗(3-2) ◎尾山 美朱(3-2)

◎善家 幸輝(1-1)③ ◎五島 沙弥(3-1) ◎長江 紗良(1-1) ➡**なんと8冊目!**

◎園田 響(3-3)、苅谷 明里(3-3)、中村 蒼葉(3-3) ➡この3名は**わおっ12冊目!**

◎奥村 萌果(1-1) ➡**前人未到の 14 冊目!**

全校436冊!(実質172名!)、3年生は109冊!(実質61名!)

【校長式辞】

「生徒が主役」・・・私が、校長として、常日頃言ってきた言葉です。今日は卒業式。主役は、他でもない卒業生です。したがって、ご来賓の皆様や保護者の皆様へのご挨拶やお礼の言葉よりも、まず一番に卒業生の皆さんにお祝いの言葉を贈らせていただきたいと思います。

私が愛して止まない93名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本校の全職員を代表して、心より祝福いたします。先ほど手渡しました卒業証書は、中学校3ヶ年の課程を修了した証書であり、同時に義務教育9ヶ年の全てをやり遂げた証書でもあり、さらには、今後あなたが「夢」をもち、「志」を立て、未来に「挑戦」するためのパスポートでもあります。

私は、校長として、あなたたちと一緒にこの稲羽中学校に入学し、同じ3年の日々を一緒に過ごしました。この世の中に、これほどまでに可愛らしく、頼もしい中学3年生がいるものなのかと、何度も何度も感心させられる毎日でした。

部活動では今年度も男女ホッケー部が全国大会に出場し、稲羽中学校の名前を全国に広げました。柔道、バドミントン、水泳の3名の永縄君たちは、各務原の「永縄」を岐阜県の「永縄」へと押し上げました。やがて、日本の「永縄」として活躍する日を心待ちにしています。

生徒会の執行部をはじめとするリーダーたちには、日ごろ「他の中学生が思いもつかないようなことを考え、実行しなさい」と声をかけてきましたが、初めての全校レクは見事でした。稲羽中学校の生徒も職員も全員笑顔にしました。私の還暦を祝うサプライズ・バースデイ集会では、私を号泣させました。

体育祭では、今年度も国旗掲揚の場で、国歌を独唱する生徒を募集したところ、真っ先に立候補して、見事に一人で「君が代」を歌い切ったあなた。真っ青な空に響き渡ったあなたの歌声を私は一生忘れません。在校生の中から、あなたの後を継ぎ、あなたを超えられる生徒が出るか楽しみです。

合唱発表会。どのクラスも、まさに甲乙つけがたい合唱を披露しました。何よりも感動したのは、当日体調を崩して休まざるを得なかった学年主任のために、後日「第2回合唱発表会」を行ったことです。生徒を想う教師と教師を慕う生徒の、美しい姿でした。上田先生、素敵な学年を創り上げてくれてありがとう！

今年度、一人も欠けることなく修学旅行に全員で参加できた中学校は、稲羽中学校だけです。その陰には、自分自身や仲間のことで思い悩み、なかなか教室に入らなかったけれど、先生や仲間の励まし・支えによって、自分自身と闘って、見事に教室に復帰できたあなたの努力があったからこそその結果です。

義務教育を修了して、まさに社会に飛び立とうとしている卒業生の皆さん、あなたたちの未来が、明るく、無限の可能性にあふれた輝かしいものであってほしいと誰よりも願っています。しかし、残念ながら夢と希望ばかりに満ちたものであるとは言い切れない状況にあります。いつ戦争が起きてもおかしくない世界情勢。近い将来必ず起きると言われる南海トラフ地震や地球温暖化などの環境問題。また、AI（人工知能）の発達により、近い将来、現存する職業の半分以上が人間の手を必要としないものになるとか、優秀な外国人労働者に多くの職業を奪われてしまうとか言われますが、決して根拠のない情報ではないと危惧しています。実に多くの課題や不安を抱えながらも、それでも平和で幸せな世界、国家、地域、家庭を築くために必死に生きていかなければなりません。そのためにも、もっと勉強し、もっと心と身体を鍛え、もっと文化や芸術に親しみ、もっと人を愛し、元気いっぱい生きてほしいのです。

そんな時代に生きる皆さんだからこそ、「夢」をもってほしいのです。先ほど、近い将来、今の我々の仕事の多くはAIやロボットに代替される可能性が高いという悲観的な説がある一方で、『今の子供たちの65%が、まだ存在していない職業につくだろう』と、すなわち新たな職業が生まれる可能性も大いにあると予想されています。何とも「夢」のある話ではありませんか！ 「夢」は、ピンチをチャンスに変え、前向きに生きる力の源となるはずです。

卒業生の皆さんへの餞（はなむけ）の言葉の最後に、私が皆さんと一緒にこの稲羽中学校に赴任した時に詠んだ歌を贈ります。

「夢」をもち 「志」を立て 「挑戦」し 「誇り」に結ばん 稲羽の子ども

最後になりましたが、各務原市健康福祉部長 鷲主英二様、各務原市教育委員会教育委員 岩田重信様をはじめ、卒業生および本校のためにお力添えを賜りました多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、稲羽中学校の卒業生のために、第62回卒業証書授与式を盛大に挙行できますことを、高い所からではありますが、深く感謝申し上げます。本日は誠にありがとうございます。

保護者の皆様には、本日、お子様が立派に義務教育の9ヶ年の学業を終え、卒業を迎えることができましたことを、心よりお慶び申し上げます。誠にありがとうございます。また、入学以来、本校の教育活動に対しまして深いご理解とお力添えをいただきましたことを、ここに厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

ご来賓並びに保護者の皆様に、今後とも卒業生の多方面での活躍を末永く温かく見守っていただきますようお願い申し上げます。式辞いたします。 私が誇りとする卒業生の皆さん、お別れです。 お元気で！

